



橋 戸

令和2年10月30日

学校だより 第8号

練馬区立橋戸小学校

校長 青木 俊哉

せんせいとはなそ

校長 青木 俊哉

11月は「ふれあい月間」です。

都内の公立学校で、年3回(6, 11, 2月)、子供の成長に関わる大人や子供たち同志が、触れ合いを強め、いじめを防止し、心を豊かに育むための様々な取組が、続けられてきています。練馬区では、いじめや不登校ゼロを目指した取組の一環として、毎年この時期に「いじめ一掃キャンペーン」を行っています。今年は、「いじめ撲滅宣言」に取り組みます。全児童の作品は、今月下旬から来月にかけて、各学年・学級の廊下に掲示します。個人面談等でご来校の折に、ご覧ください。

このふれあい月間にあたる今月、本校では、ふれあい月間の趣旨、原点に立ち返り、『言葉を交わす・じっくり話す』に意識して取り組みます。

“三密を避け、互いの距離をとり、マスク越し”に話すことが求められ、“身体接触を伴う関わり”がとれなくなり、人と人とのコミュニケーションの重要性がこれまで以上に切実に感じられた今年ですが、今月はことさらに「話す」時間や場を意識したいと考え、既に教職員には伝えてあります。日々の授業、学校行事、生活指導、それらの計画や準備に追われる先生たち。毎日6時間学び、放課後や帰宅後も忙しい子供たち。放っておくと忙しさと慌ただしさに埋没し、自ずと会話も減ってしまいます。会話、言葉を介したコミュニケーションの不足により、互いの考えが通じなかったり、思いが伝わらなかったり…、それによって人間関係がギクシャクしてしまったり、思いがけずトラブルにつながったり…ということが、子供同士でも、子供と大人の間でも、起こらないとは限りません。体育学習発表会を終え、行事も橋戸縁日くらい、幸い大きな取組のない今月に、「話をしよう」と呼びかけたのには、こんな背景があります。実際にどのように話をする時間や場を設けるか、どんな取組を進めるかは、学年や学級によって違うと思いますが、それぞれの工夫の下、子供と先生、子供同士の会話がたっぷりとなされることを、楽しみにしています。

さて、今月の表題『せんせいとはなそ』は、この取組のタイトルとも考えています。「先生と話そう」ではなく『せんせいとはなそ』としたのには、すべてかな書きにすることで、取組そのものを柔らかく受け止めてほしい、気軽に話ができる雰囲気を作ってほしい、学校全体でそんな空気を感じたい…との思いからですが、自分のコピーライトの才の無さを感じてしまいます。画才の無さは、さらにその上をいきますから、ポスターに表現することもできず、この巻頭言を使ってお知らせしています。

「せんせいとはなそ… みんなとはなそ…」

どなたか、私の思いを汲み取って、イラストを添え、ポスターにしてももらえないだろうか…などと勝手な思いが頭をよぎったところで、筆を置きます。